

令和7年2月5日開催

保健医療・子ども家庭支援等福祉対策特別委員会

委員長報告

令和7年3月定例会

委員長 松本 進

去る2月5日に開催されました当委員会の審査概要について、順次ご報告申し上げます。

初めに、報告事項の1「川口市こども未来計画（案）の策定について」報告を求めましたところ、次のような説明を徴しました。

本計画は、令和2年に策定した「第2期川口市子ども・子育て支援事業計画」の計画期間が今年度をもって終了することから、当該計画の実績や課題等を整理することに加え、こども基本法やこども大綱等を勘案し、新たに策定する計画であるとのこと。

本計画においては、「みまもる目 つながる手 こどもが笑顔で健やかに成長できるまち かわぐち」という基本理念を掲げ、すべてのこどもの幸せにつながる支援、子育て・子育ての支援、保護者が安心して子育てができる環境の確保を基本目標としているとのこと。

今後は、これまでに実施した市民ニーズ調査、こども・若者意見聴取、若者ワークショップ及びパブリックコメントのほか、令和7年3月に開催される社会福祉審議会からの答申を踏まえ、本計画を策定する予定であるとのことでありました。

以上のような説明に対して、本計画策定後の周知方法について問われ、これに対して、本計画を学校や関係機関等に配付するほか、こども用として概要版を作成し周知を図るとのことでありました。

このほか、本計画に成果指標を設ける目的について等、質疑応答の後、本報告を終了いたしました。

次に、報告事項の2「川口市健康生きがいつくり計画・食育推進計画（第三次）（案）の策定について」報告を求めましたところ、次のような説明を徴しました。

本計画は、密接に関係し重要な施策である「健康づくり」と「食育」に関する取り組みを効果的かつ効率的に推進するため、平成26年に策定した「川口市健康・生きがいつくり計画（第二次）」及び平成29年に策定した「川口市食育推進計画（第2次）」を総合的に一体化した計画として策定するものであるとのこと。

本計画においては、「どの世代も健康で生きがいをもち 食を楽しめる都市川口」という基本理念を掲げ、みんなが健康で暮らせるまち、みんながいいきと暮らせるまち、食がみんなの健康と暮らしにつながるまちを基本目標としているとのこと。

今後は、令和6年12月から令和7年1月までの間に実施したパブリックコメントの結果を踏まえ、本計画を策定する予定であるとのことでありました。

以上のような説明に対して、計画期間における中間見直しの方法について問われ、これに対して、毎年度、各分野で取り組んでいる施策の達成状況を確認し、川口市地域保健審議会に報告を行い、中間見直し時に目標の再設定を行う予定であるとのことであります。

このほか、市民意識調査の対象となった学校の選定方法について等、質疑応答の後、本報告を終了いたしました。

最後に、報告事項の3「医療DXの推進について」報告を求めましたところ、次のような説明を徴しました。

川口市立医療センターでは、超少子高齢社会により、生産年齢人口の減少が見込まれることから、医療の質の向上や医師等の働き方改革、患者の利便性向上への取り組みを行うため、医療DXを推進しているとのこと。

これまでの取り組みとしては、人工膝関節置換術の術中に骨を切る角度や人工関節設置位置のアシスト等を行う「ロザ・ニー」の導入や、患者の3D画像をスタッフが共有しながらシミュレーションを行う「医療VR（Holoeyes）」等を導入したとのこと。

今後の取り組みとしては、マイナンバーカード等から個人情報を認識して申請書を作成することで、患者の負担軽減を図る「書かない窓口システム」の導入や、胸部X線画像を自動解析し、病変の見落とし防止を支援する「胸部X線画像病変検出ソフト（CXRAID）」等の導入を予定しているとのことでありました。

以上のような説明に対して、手術支援ロボットの稼働状況について問われ、これに対して、令和7年1月末時点における令和6年度の手術件数はダビンチXiが38件、ロザ・ニーが32件であるとのことであります。

このほか、医療DXを取り入れることによる経営改善の効果について等、質疑応答の後、本報告を終了し、委員会審査を終了した次第であります。

以上で報告を終わります。